

8 板書・ノート

板書やノート指導は、教科の特性や児童生徒の発達段階に応じて工夫しましょう。学習者が考えてノートをとることが「学びの調整力」の育成にもつながります。

1 板書の仕方 ※小学校低学年（算数）における3分割での板書構成の例

板書の3分割構成の例（算数）

←（導入・課題提示・見通し）→ ←（思考・学び合いの過程）→ ←（まとめ・適応問題・考察）→

導入・課題提示・見通し

10/9 3けたの数のたし算

P12 ① 365 円のパイと、472 円のケーキを買います。代金はいくらですか。

（式） $365 + 472$

思考・学び合いの過程

共通で押さえないこと

取り上げた児童の考え

学び合いで深めた考え

まとめ・適応問題・考察

まとめ

たし算のひっ算は、3けたになっても、位をそろえて、一の位からじゅんに計算する。

2 4 3
+ 6 2 5
8 6 8

じょうぎをつかう！

「課題」「まとめ」等はシートを作成してもよい

「学習問題」と「課題」は区別して提示す

「課題」は青、「まとめ」は赤など色を統一する。色は使いすぎない

「ノートで1行あける」等の記号を決めて活用する

ノートには書かない色を決めておく

2 授業が見える板書にするためのポイント

- 「課題」と「まとめ」を正対させる。
- 児童生徒の考えの変容を明示する。
- 重要な「問題」や「発問」は板書する。
- 授業の流れに沿って、簡潔に板書する。

3 ノート指導 ※小学校低学年の例

10/9 3けたの数のたし算

P12 ① 365 円のパイと、472 円のケーキを買います。代金はいくらですか。

（式） $365 + 472$

思考

たし算のひっ算のしかたはどうしたらよいか。

自分の考え

3 6 5 十の位 6+7
+ 4 7 2 百の位に1くりあ
8 3 7

まとめ

たし算のひっ算は、3けたになっても、位をそろえて、一の位からじゅんに計算する。

ふりかえり

学び方、考え方の変容、新たな疑問等を自分の言葉で表現する

行間をとり、見やすく書く

直線は定規を使うとよい

「課題」や「まとめ」は色を決め、一目でわかるようにする

自分の考えは、消さずに残す

①

2 4 3
+ 6 2 5
8 6 8

②

5 0 8
+ 4 7 1
9 7 9

③

3 2 7
+ 1 6 4
4 8 1

④

3 2 7
+ 1 6 4
4 9 1

スペースを空け、見やすく書く

間違いは消さずに、他のところに書き直す

4 学習用端末と板書・ノートの併用

時間短縮や、負担軽減を目的に、プリントや資料を、電子データで配布・回収等することが増えています。板書やノートに記入して学習すべき内容と、電子データとして保存していくことのできるものを整理することが必要になります。まずは、学習用端末内のデータを、児童生徒が手軽に確認したり、家庭学習で活用したりできるように指導していきましょう。